

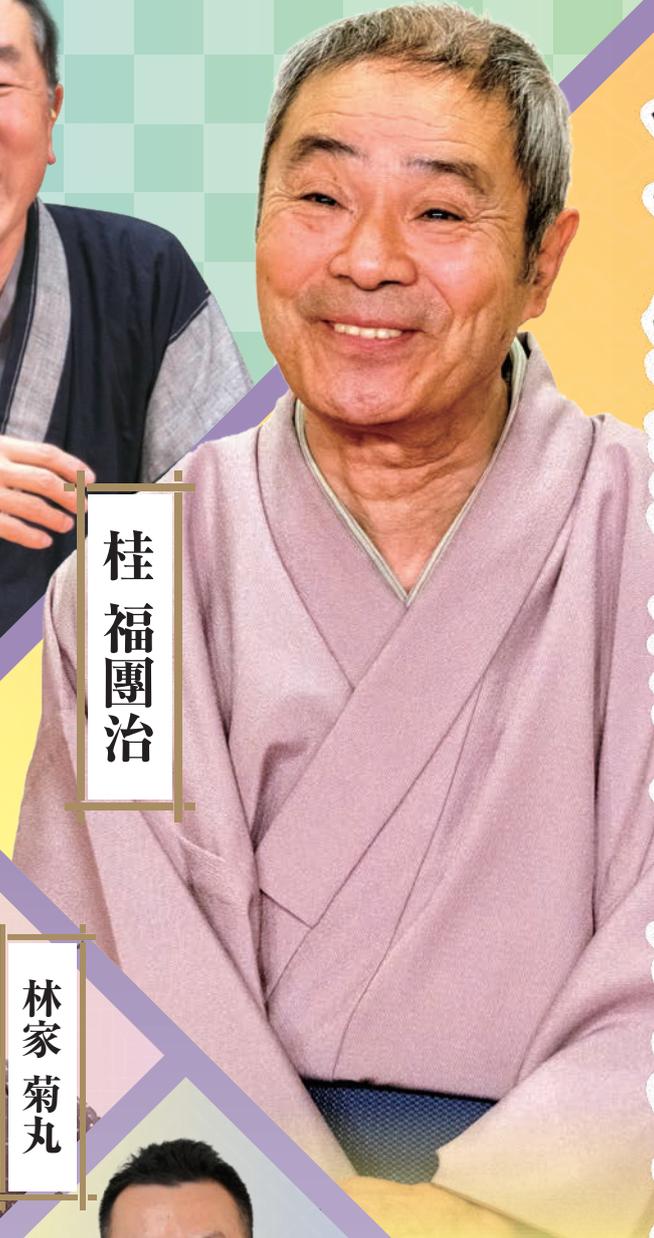
上方落語五流派競演会

寄席文字・橋右佐喜

桂
雀々



桂
福團治



笑
福亭
鶴笑



林
家
菊丸



林
家
たい平



桂
阿
か枝



2023年 6月3日 土 14:00開演 (13:30開場)

茨木クリエイイトセンター・センターホール

[全席指定] 1階席 4,000円 / 2階席 3,500円

65歳以上、障害者及びその介助者 各500円引き / 青少年(24歳以下) 1,000円

茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き (この取扱いは財団のみ)

※就学前のお子様はご遠慮ください

予約開始 4月1日(土) 10:00~

主催: (公財) 茨木市文化振興財団 制作: 三栄企画 構成・解説: 相羽秋夫 後援: 茨木商工会議所 / 茨木市観光協会

自慢の噺で聴衆を圧倒 ——十八番特集

おはこ

歌舞伎界の名跡、市川團十郎の名が、昨年復活した。海老蔵が十三代目を襲名したのだ。コロナ禍のため、二年遅れの襲名披露となった。

この團十郎家に、代々伝わる得意芸の演目が十八番ある。因みに歌舞伎や能・狂言などの舞曲は、作品を「番」で数える。團十郎家の最も得意とする芸十八番から、一般に得意芸のことを「十八番」と呼ぶようになった。

また、團十郎家では、この十八の演目の台本を「箱」に入れて伝えてきたので、十八番と書いて「おはこ」と読むのである。

さて、十七回目を迎える今年の「上方落語五流派競演会」は團十郎襲名に呼応するかのようになり、演者の最も自慢出来る演目を上演する「十八番特集」である。

上方落語を代表する五つの一門からの代表者が激突して、門下の威信をかけた迫真の高座が評判を呼んで、茨木市の名物となった落語会である。

今年、東京より「笑点」でお馴染みの林家たい平をゲストに招いて、より充実した会が期待出来る。

それでは、会を盛り上げる六人の名手のプロフィールを出演順にご紹介することにしよう。

華々しく十七回目の競演会の口火を切るのは、**五代目桂文枝一門の桂阿か枝**である。

「華麗の文枝」を師匠に持つ二十番目の弟子。岡山大学を卒業後サラリーマン生活をしてきたが、一念発起。好きな落語の道に飛び込んだ。兵庫県明石市の出身

であるところから、師匠の前座名「阿や免」の阿の字をもらってこの名前になった。

入門二十七年目の中堅だが、渋い落ちつきを見せており、大家の雰囲気が出てきた。さてどんな演目が飛び出すか。

続いて高座に上がるのは、**林家一門の林家菊丸**である。

「音曲の染丸」を師に持つだけに、はめもの〴〵と称する効果音楽が入る噺も得意としている。それも、一門きつての端正な顔立ちが効果を發揮して、噺に輝きを倍加させている。入門二十九年目である。

三重県四日市市から、大阪産業大学に入学するも、落語への情熱に堪え切れず中退してプロの道に。当初は染丸を名のつたが、名跡菊丸を襲名した。

中入りのトリは、「知性の米朝」と言われた**桂米朝一門の桂雀々**である。

幼少よりテレビのアマチュア参加芸芸番組で名を馳せ、ついに高校を中退して枝雀に入門した。師匠に輪をかけた熱演型で、全身にエネルギーを爆発させる高座が、客席の心を掴む。数年前から、活躍の場を東京に移して、上方落語の魂力を伝えている。今回はお里帰りの出演となる。入門四十六年目の真価を大阪で問う魅惑の高座が、茨木の地で見られる。

中入りの休憩をはさんで、「豪放の松鶴」が率いた**笑福亭一門の笑福亭鶴笑**が登場する。鶴笑は、両膝に手製の人形をくくりつけて、その人形が演技をする「パペツト落語」を考案した。奇想天外な展開と



相羽秋夫（演芸評論家）

奇抜なアイデアで、独自の境地を開拓した。日本はじめ、世界各国で公演し、おそらくエンターテナーとして、最も名の知れた落語家であろう。入門三十九年目の油の乗り切った舞台に、皆さんは圧倒されることだろう。

大トリは「繊細の春團治」と**桂春團治**門下の**四代目桂福團治**である。

入門六十三年の超ベテランだ。しかも上方落語界最長老の八十二歳である。依然衰えぬ話芸は驚嘆に値する。

入門当初は、「ペケペン落語」と称する新作落語に情熱を注いだ。次第に人情噺に力点を移し、上方はおるか東京の名作にも注目して上演してきた。涙なしでは聴かれぬ福團治の至芸を、胸にたたんで家路に着いて欲しい。

そして、東京よりのゲスト**林家たい平**である。

この競演会には、二度目の出演である。前回の好評に応えての来演になった。

たい平は、埼玉県秩父市の出身。武蔵野美術大学で絵画を勉強したが、絵筆を扇子に持ち代えて、林家こん平に入門した。師匠病後の日本テレビ「笑点」に入って、全国的に有名になった。入門三十六年の江戸前の芸が、茨木の初夏に花咲く。上方落語と一味違う話芸の世界に魅了されよう。

演目はあえて伏せて、皆さんの想像を膨らませようという「たくらみ」である。
(敬称略)

〈チケット取り扱い〉

発売初日はweb・電話予約のみ、1回につき6枚まで

■茨木市文化振興財団・文化事業係 (10:00~17:00)

【電話】072-625-3055

【窓口】クリエイトセンター1階/福祉文化会館3階

【web】www.ibabun.jp

【コンビニ】ファミリーマート ※要手数料

■チケットぴあ (Pコード 517-423) <http://pia.jp> セブンイレブン各店舗

■ローソンチケット (Lコード 52992) <http://l-tike.com> ローソン・ミニストップ各店舗

〈予約チケットの郵送/振込について〉

予約後5日以内に郵便局備え付けの「払込取扱票」でチケット代+410円をお支払いください。

※入金確認後発送

払込先: (払込口座) 00970-7-190576 (加入者名) 茨木市文化振興財団

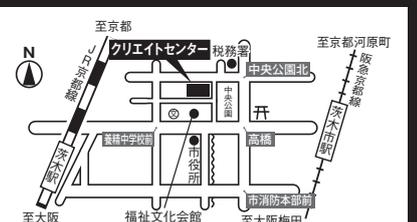
※用紙の通信欄に公演名・枚数をご記載ください ※手数料はご負担願います

公演に関するお問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (クリエイトセンター1階 10:00~17:00)

〈感染症予防についてのお願〉

ご来場の際は、感染症予防にご協力くださいますようお願いいたします。詳しくは茨木市文化振興財団webサイトにて最新の情報を確認ください。



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩12分。

クリエイトセンター (茨木市民総合センター)
大阪府茨木市駅前四丁目6番16号 **ibabun** 検索
072-624-1726